

# 令和5年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立越谷南高等学校）

目指す学校像	「文武両道」をととして「知・徳・体」の調和を実現し、目標を高く持って社会に貢献する人材を育てる学校
--------	---------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>PISA タイムやICT 活用による授業改善・教材開発を推進し、生徒が実感できる確かな学力の向上を確立する。</li> <li>自主性を育むメリハリある生徒指導やきめ細やかな進路指導を充実させ、学校行事や部活動など「文武両道」に基づく豊かな人間性を育成する。</li> <li>外国語科の特性を生かし、異文化理解を深め、語学力を向上させ、主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒を育成する。</li> <li>教育活動を積極的に地域・保護者に発信し、開かれた学校づくりを更に推進する。</li> </ol>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価（2月1日現在）		
年度目標					達成度		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題◎と改善策○	
1	<p>【現状】「PISA タイム」を1年間実施して、課題や改善点が明確になった。課題解決や改善に向け、委員会が中心となって取り組む必要がある。また、1・2年生の授業以外の学習習慣を身に付けさせるために、入学当初から、進路を意識した学習の必要性を気付かせる指導が更に必要である。</p> <p>【課題】○「PISA タイム」に取り組む意欲を維持・向上させる。また、引き続き教材研究・開発を行う。 ○学習の必要性を理解させ、授業以外の学習時間を増加させる。</p>	<p>昨年度の「PISA タイム」実施での課題や改善点の解決に向けて迅速に対応する。</p> <p>1年生及び2年生で家庭学習時間(隙間時間も含む)が2時間以上の学習者率が向上する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2回の外部模試結果を分析して、実施方法等の工夫・改善策を委員会で検討する。</li> <li>生徒の取組状況を見える化できるフォームを作成する。</li> <li>委員会で教材選定理由を集約し、以降の教材選定に活かす。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>スタディサプリ活用方法について学年・教科で指導する。</li> <li>学校評価アンケート集計結果で、経年変化等を分析する。</li> <li>面談や越南 Diary 等でスケジュール管理状況を把握・確認する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>工夫・改善策の策定</li> <li>新フォームの作成</li> <li>選定理由の集約と提供した情報数</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>スタディサプリ視聴時間と昨年度との比較</li> <li>授業以外での学習時間</li> <li>越南 Diary 等の活用率と面談の回数</li> </ol>	<p>実施しながら判明した課題や改善点に対して委員会で検討・対応。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2回の外部模試結果を比較分析するが情報が少なく蓄積中。</li> <li>4月、クラス別課題提出状況のフォームを作成し運用開始。</li> <li>「PISA タイム新聞」で教材選定理由を記載し選定者の意図を提示。</li> </ol> <p>2h以上1・2年生学習者率(昨年度) 平日1年5.0(24.6)%,2年7.3(7.2)% 休日1年23.6(23.8)%,2年21.3(26.6)% ①視聴なし生徒率36.2(41.1)% ③越南 Diary 活用率57.2(59.6)% 面談1・2学期各1回+α</p>	B	<p>◎PISA タイム週末の提出率(約70%)の向上が課題。</p> <p>◎PISA タイムに取り組む生徒の意識と意欲の維持・向上が課題。</p> <p>○外部模試受講者のデータが少なく、データの蓄積で分析。</p> <p>◎低学年でのスタディサプリ利用状況率・時間の増加及び1学年の急激な減少の原因究明と改善策策定が課題。</p> <p>○引き続き、面談や学校評価アンケートで越南 Diary の活用状況を把握。</p>
2	<p>【現状】多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付き、部活動、学校行事、生徒会活動にも意欲的に取り組んでいる。また、多くの部が高い実績を収めている。進路未決定者は5%未満で推移している。</p> <p>【課題】○部活動統一休養日の生徒活用状況を把握する。 ○創立50周年記念事業を進めるにあたり、学校行事との調整を図りながら計画的に行う。</p>	<p>部活動休養日等を有効に活用して充実した学校生活を送る。</p> <p>創立50周年記念事業を計画に基づき滞りなく実施する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>担任や部顧問が部活動休養日の生活状況を点検し指導する。</li> <li>学年集会や全校集会の講話の中で可処分時間の活用についての内容を含める。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>5つの部の進捗状況を周年行事検討委員会及び企画運営委員会で情報を共有する。</li> <li>外部関係各所との連絡調整と申請や依頼を複数の担当者で行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケートの高校生活に関する満足度</li> <li>集会等内の講話の中で話題にした回数</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>①②創立50周年式典及び記念整備事業等の計画的な準備と円滑な実施</li> </ol>	<p>高校生活に関する満足度 高い61.9% 普通28.7% 低い9.5% (昨年度58.5%、32.1%、9.5%)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>担任・学年、部顧問から、繰り返し、必要性の講話や指導を実施。</li> <li>始・終業式、学年集会、LHRで可処分時間の有効活用を話を実施。</li> </ol> <p>12/16(土)記念式典・講演、祝賀会で概ね終了し、大成功。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>校内委員会、実行委員会、企画運営委員会を計画どおり実施して、進捗状況等の情報を共有。</li> <li>各チーフ、管理職が適切に対応。</li> </ol>	B	<p>◎可処分時間の有効活用に関する指導への工夫・改善が課題。</p> <p>○学校評価アンケート質問項目に休業日生活状況の内容を追加し、経年変化を分析。</p> <p>◎創立50周年記念で整備した施設・設備の有効活用が課題。</p> <p>○創立50周年記念で整備した施設・設備、エアコンの更新を学校説明会等で紹介。</p>
3	<p>【現状】海外語学研修は、費用面や安全性確保の関係で実施ができていない。ALTの活用や外国語科行事への案内等で、普通科生徒にも異文化理解への関心が徐々に高まっている。</p> <p>【課題】○外国語科生徒の学校満足度を維持して国際感覚や語学力を高める。 ○外国語科で蓄積した異文化理解教育のノウハウを普通科へ波及させる。</p>	<p>外国語科特有の教育活動を通して国際感覚の育成と語学力の向上に取り組む。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>昨年度延期したブリティッシュヒルズでのセミナー等、国内代替施設での体験型研修を充実させる。</li> <li>プレゼンテーションや英語劇等、生徒が英語で考え、表現できる活動を積極的に取り入れる。</li> <li>大使館等関係機関からの職員派遣による行事の企画や海外研修派遣事業への応募・申請を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>②外国語科生徒の語学力向上及び学校評価アンケート学校生活満足度</li> <li>③校外での語学研修以外の事業の企画及び生徒派遣事業への応募・申請数</li> </ol>	<p>コロナ禍前に実施していた外国語科独自事業を徐々に復活。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>昨年度延期したブリティッシュヒルズ語学研修を4月実施し、参加生徒全員高評価。</li> <li>学校生活満足度(外国語科全生徒) 高い59.2% 普通27.2% 低い13.6% (昨年度57.9%、34.6%、7.5%)</li> <li>来年度、オーストラリア語学研修再開(7/24~8/6)の希望者募集決定。武蔵浦和日本語学院と相互交流。11名外国人来校、生徒10名訪問 フランス語スピーチコンテスト12月参加。</li> </ol>	A	<p>◎オーストラリア語学研修での費用対効果の検証が課題。(費用が10万円程度値上がり)</p> <p>○参加希望生徒及び保護者に対する説明を工夫。</p> <p>◎普通科に対する異文化理解教育の波及拡大が課題。</p> <p>○外国語科特有の活動及びその成果の発信を工夫。</p>
4	<p>【現状】大・小規模学校説明会は計16回開催で約1,100組参加し、部活動見学は実施方法を工夫した。ICT活用のノウハウを他校や異校種へ還元している。</p> <p>【課題】○学校説明会や部活動見学の実施時期や方法を更に工夫・改善する。 ○Chromebookの共同購入とICT推進の相談校としての役割を果たす。</p>	<p>生徒募集活動の工夫・改善と最新の学校の教育活動とその成果の発信を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校説明会の開催時期の見直しと申込方法等の工夫・改善を行う。</li> <li>部活動の成果及び進路状況等をホームページに随時更新する。</li> <li>本年度共同購入代表校に共同購入手続きのノウハウを伝え、円滑に導入する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、部活動見学会等の合計参加者数</li> <li>ホームページへの更新情報数とホームページの閲覧者数</li> <li>共同購入代表校への助言と適正・円滑な選定</li> </ol>	<p>説明会の開催時期、申込方法、説明方法を見直し・改善。10(12)月進路希望調査 普通科2.06(1.61) 外国語科0.93(0.98)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12/9現在、説明会2,084名参加 部活動体験・見学406名参加</li> <li>インスタフォロワー数1,072人 HP更新数課業日毎日更新+α。</li> <li>共同購入から単独購入に変更。県外・県内から視察訪問。</li> </ol>	A	<p>◎学校説明会の開催時期等を見直し・改善したが、開催時期の再見直しが課題。</p> <p>○夏季休業中小規模説明会を増、大規模説明会を減。</p> <p>◎外国語科の魅力発信を工夫して希望者数増が課題。</p> <p>◎入学生の端末機器選定及び業者選定方法等の検討が課題。</p>

学校関係者評価	実施日 令和6年2月6日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>○読解力・思考力を育むPISAタイムの実践は評価できる。生徒が事象を多面的にとらえる視点や考え方が涵養される。提出率の向上策が必要である。</p> <p>○部活動が忙しいこともあるが、1・2年生の半数以上が、平日の自主学習が1時間未満であることは深刻である。早期の学習習慣の定着が課題である。</p> <p>○スタディサプリの視聴時間が月平均5時間未満の割合が9割弱であり、生徒の学習の動機付けにつながっているか、妥当性を検証する必要がある。</p> <p>○学校評価アンケートの設問の工夫や、選択肢を4段階に変更することで、課題がより明確になる。</p> <p>○コロナ禍で進んだリモート学習を、大雪等の災害の日にも活用できるようになるとよい。保健体育のAED使用の実技など体験型授業も効果的である。</p> <p>○創立50周年記念式典に臨む生徒の姿勢は立派であった。授業の様子も学習規律がしっかりしており、部活動や生徒会での生徒の活躍も素晴らしい。</p> <p>○外国語科の特色を活かした取組が復活し、国際理解、語学力向上を図れたのは大きな成果である。</p> <p>○昨今の事情では海外渡航も容易でないが、様々な工夫により、国内にいながらも国際性に触れることは可能である。多様性の理解力も同様である。</p> <p>○外国語科卒業生の進路について、語学力を活かした職業に就いているか、追跡調査を行うとよい。</p> <p>○小学生にとって高校生は憧れの存在であり、地域連携の一環で小学校との交流を再開できるとよい。</p> <p>○生徒会として、学校説明会の運営に積極的に協力し、地域の方や企業と連携した取組も増やしたい。</p> <p>○一人一台端末のChromebookが授業で有効に活用されており、学習者の動機付けを強化している。</p>